

# INFORMATION

北海道からのお知らせ

## たくさん食べよう!北海道米

北海道米食率向上戦略会議では、道民の皆様へ北海道米をもっと食べていただくため、道内の主要コンビニ・スーパー等と連携した北海道米プロモーションを行っています。今年の2月1日～3月3日は「寿司」をテーマとし、期間中、北海道米を100%使用した商品が各社で販売されるほか、TEAM NACSの森崎リーダーが出演するテレビCMの放映や『北海道じゃらん2月号』での商品紹介などさまざまな媒体でPRします。



2020年産の北海道のお米は、作柄が良く特においしくできあがりました!この機会にぜひ北海道米をたくさん味わってください!



詳しくは、[北海道米プロモーション](#) **検索**  
※右記QRコード参照

## 個性豊かな北海道の日本酒

道内では、近年新たな酒蔵も誕生し、現在、13酒蔵14製造所が個性豊かな日本酒を造っています。一方で、道内で飲まれている日本酒のうち、道産は2割程度にとどまっています。

そこで道では、2020年度より新たに「米どころ・酒どころ北海道振興事業」をはじめました。今年度は、「北海道日本酒懇談会」を立ち上げたほか、インフルエンサー等に外で楽しむ道産日本酒のおいしさをSNS等でPRいただくためのキャンプモニターツアー、年末年始に道産日本酒を楽しんでもらうための酒屋と連携したPRイベントなどを実施しました。

おうち時間に、ぜひ道産日本酒を味わってみませんか?

詳しくは、[北海道の酒ポータルサイト](#) **検索**  
※右記QRコード参照



お問い合わせ [農政部農産振興課](#) TEL.011-204-5435  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/kome/index3.htm>

## 第7回「ディスカバー農山漁村の宝」が選定されました!

内閣官房・農林水産省が選定する第7回「ディスカバー農山漁村の宝」において、全国794件の応募の中から、道内の1団体が準グランプリを獲得し、2団体が優良事例に選定されました。

- 準グランプリ **北海道美幌高等学校 環境改善班(美幌町)**  
特定外来生物の駆除等による農山漁村の自然環境改善を実施し、幅広い年代が参加する地域住民との交流会で、流域環境の保全活動を広く発信。
- 優良事例 **けねべつ地域子育て支援ネットワーク(中標津町)**  
地域内の遊休施設を児童館・託児事業の両方を担う「えみふる」へ改修。子育て世代の農業者を支える地域に不可欠な存在に。
- 優良事例 **網走ビール株式会社(網走市)**  
「流氷」を仕込水に使った商品づくりにより網走の認知度を向上。年間100万本以上製造し、輸出にも積極的に取り組む。



網走湖での水質・魚介類生態調査 「えみふる」での一時預かりの様子 網走の特徴を生かした商品

お問い合わせ [農政部農村設計課](#) TEL.011-204-5397

## 2021ホッカイドウ競馬は4月に開幕!

「ホッカイドウ競馬」では、4月から11月までの火・水・木曜日を基本に日高・門別競馬場でグランシャリオナイターを開催します!また、門別競馬場と場外発売所Aiba (アイバ)では、ホッカイドウ競馬をはじめ、他地方競馬やJRAの勝馬投票券を発売していますので、ぜひご利用ください!



詳しくは、[ホッカイドウ競馬](#) **検索**  
※右記QRコード参照

お問い合わせ [農政部競馬事業室](#) TEL.011-204-5377  
[\(一社\)北海道軽種馬振興公社](#) TEL.01456-2-2501



人を思いやる温かさが、  
農村を守っている。



## 農のことは

農家の言葉を通して  
農業の魅力に触れる

有限会社 仲野農園  
なかのみつる  
仲野 満さん

長沼町出身。拓殖大学北海道短期大学在学中から実家の農園の働き手となり、その後同農園 4代目代表に。果樹園、畑作のほか、ファームレストランハーベストを経営。

あの禍が思い起こさせた  
いちばん大切なこと  
長沼町でファームレストラン「ハーベスト」を開いて25年。ありがたいことに毎年たくさんのお客様に来ていただきました。多くは道内外からの観光客。最盛期は年間6万人を超えるほどでした。その姿が一瞬にして消えてしまったのは昨年2月。原因は新型コロナウイルスです。お客様で溢れんばかりだった店内が静寂に包まれる。日常と異常が逆転した実には不思議な光景でした。当初はどこか楽観視していましたが、事態は深刻化する一方。レストランも売上が激減してしま、このままだといずれ経営が立ち行かなくなるのではないかともし思いました。ゴールデンウィークになっても、緊急事態宣言下でレストランは休業。対応策としてテイクアウトメニューを揃えましたが、この時期に観光に来る人などいるはずもない。そんな時に「町内にテイクアウトのチラシを配るから仲野さんと一緒にやってみませんか?」と役

場が声をかけてくれました。「うちは町外のお客様がほとんどだから」とあまり期待はしていませんでしたが、蓋を開けてみると、次々にご近所さんや町の方々がお店に買いにきてくれたんです。本当にうれしかった。売上よりもその温かさが、地元のお互い様という気持ちです。「なんぼか足しになるだろう」ってアップルパイを買ってくれる仲間。「普段は入れてもらえないからさ」なんて辛口のジョークを言う人もいたりして。みんな店のこと、自分らのことをちゃんと気にかけてくれていたんです。その一方で、この店は観光客相手とも思っていた自分を恥ずかしいとも思いました。忘れてしまっていたんです、この店もご近所の助け合いや地元の励まし合いで成り立っていることを。そんな人々に囲まれてうちの農園も家族もいるってことを。「お互いさま」おかげさまという人の優しさ、慈しみが、きっと農村を守ってきたんですね。コロナは憎いですけど、去年はいちばん大切なことを改めて認識させられた年でした。

次号の「コンファ秋号」を無料でお届けします

次号(2021年秋号)は10月頃に発行する予定です。送付を希望される方は、右の綴じ込みハガキに必須事項を記入し、ご感想などを添えて投函してください。WEBアンケートやメール、電話、FAXでも受け付けていますので、「コンファ2021秋号希望」と明記のうえ、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記載し、下の宛先までお申し込みください。

〒060-8588 北海道農政部農政課政策調整係(住所の記入不要)

TEL 011-231-4111(内線27-126) FAX 011-232-4126 Eメール nosei.noki2@pref.hokkaido.lg.jp

今号の特集「農業を支える、多様な働き手たち。」では、農業の現場で働く人々をご紹介します。前号で取り上げた様々なシゴトや機械などのモノ、そして今号のヒト。誌面でご紹介できたのはほんの一部ですが、野菜を手にとったときやドライブで農村地域を走ったときなどに、農業に携わるたくさんの方の思い出していただくと幸いです。